

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：33920

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520667

研究課題名(和文) 大学英語教育でのパラグラフ・ライティングを促進する評価及び指導ツールの開発

研究課題名(英文) Developing an assessment and instructional tool for L2 (English) writing in higher education in Japan

研究代表者

久留 友紀子 (KURU, Yukiko)

愛知医科大学・医学部・准教授

研究者番号：00465543

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大学・短大で行われる英語教育においてパラグラフ・ライティング指導が促進されることを目標として、研究I～研究IVの一連の研究を行い、当研究グループがこれまで開発・検証してきた英語ライティング・ルーブリック(評価ガイドライン)を補足し説明する、評価基準の具体的な解釈と作文サンプルを作成した。同時に本来評価ツールであるルーブリックをライティング指導のために活用する方策を考案し実施した。

研究成果の概要(英文)：When a particular rubric is shared by different users, understanding and interpretation of the rubric may vary depending on the users, which could lead to reliability or validity problems. One of the solutions is to supplement a rubric with well-articulated interpretations and relevant writing samples. We have conducted the studies to determine such interpretations and writing samples supplementing an original L2 (English) essay/paragraph writing rubric, which the research group have developed for classroom use in Japanese higher education. On the basis of the results, we have prepared the interpretations and writing samples. We have also implemented a teaching plan where students use the rubric for peer assessment as well as self-assessment. The questionnaire to the students showed that the rubric helped them identify aspects needing improvement.

研究分野：英語教育

キーワード：第二言語ライティング パラグラフ・ライティング ルーブリック 作文評価

## 1. 研究開始当初の背景

大学(以下すべて短大も含む)という高等教育における英語教育では、論理的な思考を高め発信する能力を育成するために学習者のライティング能力を十分に伸ばすことは大変重要な課題である。プロセスアプローチを用いたパラグラフ・ライティング指導は、自分の考えや意見をまとまりのある形で書けるようになる練習として有効であると考えられているが、そのような英語ライティングには学習者にとっても指導者にとっても難しい問題がある。

第一に挙げられるのが評価の問題である。学習者がそれぞれの考えに基づいて書いた作文を評価するのは難しく、適切な評価ツールなしに公平で信頼性・妥当性のある自由作文の評価を行うのはほぼ不可能であると言っても過言ではない。

もう一つの問題は、ライティングという言語活動の複雑さと関係している。ライティングのプロセスは、計画、草稿、見直し、書き直しなどの手順を、書き手自らがモニターしながら行きつ戻りつする非常に複雑なプロセスであることがわかっている(Flower & Hayes, 1981)。またライティングは習得が難しい技能であることから、いかに学習者が自立・自律し自ら学び続けていけるようになるかがカギであると言えるだろう。ライティング指導が真の意味で成功するには、学習者が自らのライティング作文とプロセスの両方を意味する—に対して「気づき」を経験し自律的かつ自立的な学習者へと成長していくことが必要なのである。

これまで当研究グループは、日本の大学の英語の授業で教師と学生が共に使えるような英語ライティング・ルーブリック(評価ガイドライン)を開発し、その妥当性・信頼性について、またその使いやすさについて検証し改訂を行ってきた(Kinshi et al., 2011)。それらの研究の結果得られたのが「ルーブリック 2009」である。その特徴は次のようにまとめられる：

- ・日本の大学で一般的に行われている英語の授業で使うことを想定している
- ・評価対象の課題はパラグラフ・ライティングまたはエッセイ・ライティングである
- ・教育的なフィードバックを行いやすい分析的評価である。「内容・展開」「構成」「文法」「語彙」「綴り・句読点など」の5項目とそれらを規定する下位項目から成る。
- ・日本人教員そして英語母語話者教員、さらには学生にとっても分かりやすく使いやすいものとするため項目・下位項目は英語と日本語で簡潔に明記されている
- ・大学によって、またクラスによってライティング力に大きな差があることを想定し、評価尺度(評点)は環境や目的に合わせて自由に設定できるようになっている
- ・評価ツールであると同時に、指導における目標ステイトメントであり、またそのため

の指導ツールの役も果たす。

このような特徴を持つ「ルーブリック 2009」を使って、上述した問題の解決の一助となり日本の大学におけるパラグラフ・ライティング指導を促進するツールや方策を開発したいということが、本研究の研究背景と動機である。

## 2. 研究の目的

上述の「ルーブリック 2009」を使って、具体的には次の2つを行うことを本研究の目的とした。

### (1) 評価の問題に対して

通常ルーブリックの評価基準は簡潔な言葉で表現される必要があり、「ルーブリック 2009」もその原則に則っている。しかし簡潔に書かれたルーブリックを誰もが適切に使用できるようにするには、それを補完するものが必要である。外部試験などでは事前に評価者トレーニングを行うことが一般的であるが、これは実際の教育現場では必ずしも現実的でない。それぞれのクラスの評価は担当する教員に一任されていることが多いからである。そこでそういった場合でも適切な信頼性・妥当性を保ってルーブリックを使えるように、基準の具体的な説明文(解釈)とその例となる作文サンプルを用意することが、本研究の目的の一つである。

### (2) 自律的・自立的な学習者への成長促進のために

「ルーブリック 2009」は、評価基準を記したガイドラインであると同時に、パラグラフ・ライティングまたはエッセイ・ライティングにおいて注意すべき事柄の目標ステイトメントでもある。「ルーブリック 2009」を学生が使用することで、彼らが自分自身でどこを改善すればよいかについて「気づき」を経験することが期待される。本研究のもう一つの目的は、この結果を基に「ルーブリック 2009」をパラグラフ・ライティング指導ツールとして活用する方策を考案することである。

## 3. 研究の方法

上述の2つの目的に対して、具体的には以下の研究I~研究IVに述べる方法をとった。

### (1) 研究I:「ルーブリック 2009」の下位項目による評価の量的データおよび質的データの分析(Kuru, Kinshi, Masaki, Otoshi, & Yamanishi, 2014)

日本人大学生の作文を第三者評価者が独立して「ルーブリック 2009」の下位項目ごとに評価を行ったことから量的データと質的データを得た。評価者は大学でライティング教育や研究に関わる日本人の英語教員6名、参加者は日本の大学でTOEFL®準備のコースを履修する1・2年生のうちの6名である。

評価対象の作文は、ETS® Criterion®の「全トピック一覧」から選ばれた3つのトピックについて6名が書いた合計18の作文である。量的データとして「ループリック 2009」の5項目を具体的に規定している下位項目のそれぞれについて6段階の評価を得た。同時に、評価者からループリック 2009の使用に関する自由記述を得、これを質的データとした。量的データ・質的データともにそれぞれ、異なる項目の下位項目間で問題となる重なりを分析した。

(2) 研究 II : ループリックに依らない評価の質的データの分析 (大年・正木・久留・山西, 2013)

「ループリック 2009」を使用しない調査として、調査 1とは異なる日本人大学生の作文を、これも調査 1とは異なる第三者評価者が独立して、ループリックを用いずに評価を行った際の自由記述データを得た。評価者は大学で英語教育や研究に関わる英語母語話者の英語教員4名、参加者は日本の大学でパラグラフ・ライティングのコースを履修していた1年生のうちの30名である。評価対象とした作文は、この30名が指定されたトピックについて書いた作文である。これを評価者はいかなるループリックも用いずに4段階で総合評価し、その際、評価にあたってポイントとしたことを自由記述で記録した。この自由記述データを、質的手法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ (GTA) で切片化し、それらを類似性に基づき分類したオープンコーディング (データの分類) 結果とループリックの項目内容とを比較した。

(3) 研究 III : 「ループリック 2009」の下位項目による評価と外部評価の比較 (正木・大年・金志・久留友紀子, 2012)

ループリック 2009の教室での有用性を探るために、上記の研究 I と同じ日本人大学生の作文の ETS® Criterion®のスコアと、研究 I の第三者評価者の評価データの一部を比較・分析した。該当授業は外部評価である ETS® Criterion®を利用してしたが、参加者6名が異なる時期に異なるトピックについて書いた作文に対して ETS® Criterion®から得た6段階の評価スコアは、6名とも3回を通してそれぞれ変わらなかった。この ETS® Criterion®のスコアを、大学でライティング教育や研究に関わる日本人の英語教員3名が行った「ループリック 2009」による評価と比較した。

(4) 研究 IV : 「ループリック 2009」を使った指導実践 (金志・大年・久留・山西博之, 2015)

評価ツールである「ループリック 2009」を教室での指導に組み入れた実践を行った。参加者は、日本の大学で英語ライティングのコースを履修する3年生37名である。まず、教室において参加者に「ループリック 2009」

を提示したうえで、評価項目および下位項目についての説明を行った。また、授業内で行うライティングは、この「ループリック 2009」を用いて評価されることが伝えられた。次に、教員が選んだプロンプトが提示され、ライティングが行われた。ライティング終了後、完成した作文について「ループリック 2009」を用いて学生同士が互いに相互評価を行った。相互評価のあと、同じ要領で学習者本人による自己評価がなされた。最後に、「ループリック 2009」を指導ツールとして使った効用を、改善点に関する気づきという観点から質問紙調査を行った。

#### 4. 研究成果

これらの研究 I ~ IV の結果、以下の成果が得られた。

##### (1) 研究 I

量的データである「ループリック 2009」の下位項目ごとの評価の分析結果、および質的データである自由記述の分析結果より、問題となる可能性のある、異なる項目間の下位項目の重なりが大きいと考えられるところは「構成」の次の下位項目であることがわかった。

- ・文章は論理的に構成されている
- ・文章の流れはスムーズである
- ・つなぎ言葉が適切に使用されている

そこで、この3つの下位項目に対して補足的説明となる解釈文を作成した。解釈文は「構成」と他の項目との関係性あるいは差異がより明確に理解されるように作成された。同時にそれらの下位項目の問題を説明できる例として、評価対象の作文を改変し、問題点の説明を付けて作文サンプルとした。「構成」はライティングにおいて大変重要である一方で、その要因を理解し評価することが難しい面を持つことが明らかになり、その点に焦点をおいて解釈説明と作文例を作成することができたことは意義深いと考えている。

##### (2) 研究 II の結果

GTA に従って切片化し分類した内容は、「ループリック 2009」の項目・下位項目と基本的に一致した。しかしながら、補足的な説明があるとよいと思われたものが3点あり、それら3点についてはそれぞれ「ループリック 2009」の項目・下位項目のいくつかと関連すると考えられた。

##### (3) 研究 III の結果

第三者評価者3名の「ループリック 2009」による評価と ETS® Criterion®との相関性は高く、1%水準で有意な結果であった。「ループリック 2009」は ETS® Criterion®と十分に高い相関性を持って評価できることが分かった一方で、ETS® Criterion®では3回とも同じスコアであった学生の作文に対しても、「ループリック 2009」の使用によって全体

評価では捉えられない差異や進歩が評価された。これを指導に役立てることができれば、学生が自身のライティング—作文とプロセスの両方—に対してさまざまな「気づき」を経験することを促すことができるであろうと考察された。

#### (4) 研究 IV の結果

「ループリック 2009」を学生が自己評価と相互評価のために利用した実践の後に行った、改善点に関する気づきについての質問紙調査の結果、「内容・展開」と「語彙」についてはループリックを使って評価することで改善点に気付くことができたポジティブに捉えられていた一方、「構成」と「文法」はポジティブとネガティブにほぼ分かれたこと、「綴り・句読点」に関しては主にネガティブに捉えられていたことが分かった。項目によって程度は異なるが、「ループリック 2009」による相互評価・自己評価によって、学生自身の気づきを促すことができ、結果、学生が自立・自律した学習者になることに貢献すると考えられた。

#### (5) 「ループリック 2009」の改訂

調査 1 で得た自由記述の中にループリックの記述子（下位項目の説明の文章）に関するコメントがあったことを受けて、「ループリック 2009」の 2 つの下位項目について表現の統一を中心とした改訂を行った。また、「内容・展開」の下位項目のうち、字数・時間など作文の条件に関してはそれぞれの教室のコンテキストに依存するところが大きいことから、下位項目からは外し解釈文で補足することとした（図 1）。

#### (6) 今後の展望

今後の展望としては、汎用性の高い評価ツール兼指導ツールとして「ループリック 2009」、「ループリック 2009」の項目・下位項目に対する解釈一覧、そして作文サンプルを合わせて広く提供し、以下の事柄に対する知見を得て、実践上のさらなる解決策を見いだすことである。

解釈一覧と作文サンプルと共に「ループリック 2009」を運用した結果、特に評価が問題となりやすいライティング指導経験の少ない教員が評価した場合の結果の検証

ライティング研究や指導になじみの少ない教員にとって解釈一覧と作文サンプルがどの程度分かりやすいかの検証

指導ツールとして使用した際の効果の検証と、指導を補助する手段の開発

以上。

<p>内容・展開 Content &amp; Idea Development</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の要求に対応した内容が述べられている The content is relevant to the given topic.</li> <li>・論旨から外れることなく、首尾一貫した主張が展開されている The writing is coherent.</li> <li>・トピックセンテンス（トピック＋メインアイデア）は、明確に提示されている Every topic sentence is clearly shown.</li> <li>・トピックセンテンス（トピック＋メインアイデア）は、十分に展開されている Every topic sentence is fully developed.</li> </ul>
<p>構成 Organization</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入・展開・結論の構成になっている The writing includes an introduction – body – conclusion structure.</li> <li>・文章は論理的に構成されている The writing is logically organized.</li> <li>・文章の流れはスムーズである The writing flows smoothly.</li> <li>・つなぎ言葉が適切に使用されている Connecting words / expressions are used effectively.</li> </ul>
<p>文法 Grammar</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な構造の文が使われている A variety of sentence structures are used.</li> <li>・文構造は正しい Sentence structures are accurate.</li> <li>・主語・動詞の一致、時制、数、代名詞、冠詞、前置詞などに誤りがない The writing has no errors of subject-verb agreement, tense, number, pronouns, articles, prepositions, and so on.</li> </ul>
<p>語彙 Vocabulary</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な語や表現が使われている A variety of words and expressions are used.</li> <li>・語や表現の選択は適切である The choices of words and expressions are appropriate.</li> </ul>
<p>綴り・句読点など Mechanics</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の最初の行が適切に字下げ（3～5字または½インチ程度）されている The first line of each paragraph is appropriately indented (3 to 5 letters or ½ inch).</li> <li>・段落の始めなど、適切な位置で改行されている Lines are appropriately changed.</li> <li>・綴りが正確である The spelling is accurate.</li> <li>・句読点・大文字の使用が正確である The punctuation and capitalization are accurate.</li> </ul>

図 1. ループリック 2009 (改訂版)

<引用文献>

Flower, L., & Hayes, J. R. (1981). A cognitive process theory of writing. *College Composition and Communication*, 32, 365-387.

Kinshi, K., Kuru, Y., Masaki, M., Yamanishi, H., & Otoshi, J. (2011). Revising a writing rubric for its improved use in the classroom. *LET Kansai Chapter Collected Papers*, 13, 113-124.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

金志佳代子, 大年順子, 久留友紀子, 山西博之 (2015年度8月6日). 「指導ツールとしてのライティング・ルーブリックの効用：学習者の気づきを促進させる試み」外国語教育メディア学会第55回全国研究大会 千里ライフサイエンスセンター 大阪府.

Yukiko Kuru, Kayoko Kinshi, Michiko Masaki, Junko Otoshi, & Hiroyuki Yamanishi (2014年8月11日). Supplementing an original L2 (English) essay/paragraph writing rubric with interpretations and writing samples. AILA World Congress 2014, Brisbane, Australia.

大年順子, 正木美知子, 久留友紀子, 山西博之 (2013年11月9日). 「英作文用ルーブリックの使用を助ける解釈例の作成」2013年度大学英語教育学会関西支部秋季大会 神戸市外国語大学 兵庫県

正木美知子, 大年順子, 金志佳代子, 久留友紀子 (2012年11月24日). 「ルーブリック 2009 の教室における有用性：ETS® Criterion<sup>SM</sup>と比較して」2012年度大学英語教育学会関西支部秋季大会 京都産業大学 京都府

6. 研究組織

(1)研究代表者

久留 友紀子 (KURU, Yukiko)  
愛知医科大学・医学部・准教授  
研究者番号：00465543

(2)研究分担者

正木 美知子 (MASAKI, Michiko)  
大阪国際大学・人間科学部・教授  
研究者番号：80229351

大年 順子 (OTOSHI, Junko)

岡山大学・言語教育センター・准教授  
研究者番号：10411266

金志 佳代子 (KINSHI, Kayoko)  
兵庫県立大学・経営学部・准教授  
研究者番号：20438253

山西 博之 (YAMANISHI, Hiroyuki)  
関西大学・外国語学部・准教授  
研究者番号：30452684